



# ホンダが撤回 町有地売り払い計画が白紙に

## 町民本位の町づくり。土地利用を！

六月一日議会全員協議会が行われ、冒頭、町長から町有地売り払い計画を中止する旨の報告がありました。ホンダ幹部会で地域の理解が得られないのであれば購入できなくても結構である」といふ結論が出されたからとのことです。駅北町有地「セブン」工場の跡地 地図参照のホンダへの売却計画は白紙に戻りました。

### あまりに拙速な計画

五月八日、議会全員協議会で、町は突然、町有地に対するホンダの要請を受け、九階建て「部八階建て」二五〇室の独身寮の建設地として売却したい旨の説明をしました。

この跡地は一九九五年から九七年にかけて町が十一億七千万円もの巨費を投じて購入したもので第四次総合振興計画（二〇〇六年三月策定）で小川駅前北側は、総合的な土地利用を検討し、北口開設や駅前広場の整備「について関係機関と協議を進める」とも、「駅橋上化を検討する」と定めた土地です。日本共産党は、行政の原点に立ち、町民に情報を公開し、状況を説明し、総合振興計画との整合性を図るべきとの主張をしてきました。

五月末に仮契約を結び、六月議会の承認を受け本契約とはあまりに拙速です。

### 町幹部経験者も反対

町の幹部経験者の三人から連名で町長、議長宛に「この町有地の売却は駅北口広場整備を将来に回しても断念せざるを得ず、今後の町づくりは止むを得ないが大変心配です。この売却を止めていただき、用地取得の目的に沿った活用をお願いします。・・・」という要望書も提出されました。また、隣接する自治会からもこの計画に対する「おぼろげな失望」が表明され、慎重な審議と住民への十分な説明を求める要望書が町へ提出されました。また隣接区の役員からは、「この計画は早急すぎる感じがする。町は北口を作るという感じが、総合的な整備がされるべきだと考えていた。やり方が一方的過ぎる」との批判の声も上げられていました。こうした状況の推移、変化の中で、町の執行部の中にも無理押しはできない。「ある幹部職員談」との認識が示されるようになってきました。

### 総合振興計画の原点に立ち返り

今回の町有地売却計画が白紙に戻された経緯は、町は総合振興計画の原点に立ち返ってほしいとの町民の声と動きが大きなものです。またホンダ側がこの声と動きを真摯に受け止めた結果とも言えます。ホンダを迎えるにあたって、日本共産党は、第四次総合振興計画に沿って「ファン跡地が活用され、小川駅前北側の玄関口としての整備を含め、何よりも町民本位の町づくり、土地利用が進められるよう頑張りたい」との考えを述べています。

## 住民の利益第一に働く

# 日本共産党



日本共産党小川町委員会  
町議 本多重信  
町議 柳田たえ子

町有地売り払い問題についての日本共産党小川町委員会の見解をお知らせします